

のぐち光男一般質問（12月16日）

質問内容	答弁
<p>審議会の運営について伺います。何故第6回から公開されない秘密会になったのか、伺います。あわせて、これまでのこの審議会はどうだったのか、伺います。</p> <p>現在、市民の意見募集をされていますが、審議会の議事録が公開されていないのはおかしいのではないのでしょうか、審議経過が全くわかりません。なぜ議事録を公開しないのか、伺います。</p>	<p>7月に開催された第1回審議会から会議を公開して行ってまいりましたが、平成27年4月に開催された第6回審議会において、具体的な学校統合の方策を審議するにあたり、自由かつ活発な議論を確保する観点から、枚方市附属機関条例第6条第2項の規定に基づき非公開とすることを委員の総意により決定されたもので、会議録についても同様に非公開としております</p> <p>会議録については、適切な時期に公開</p>
<p>説明会を学校や地域でなぜ開催しなかったのか</p>	<p>個別の説明会の開催については、統合に向けた取り組みを進める際に実施する</p>
<p>当該小学校のPTAが説明会を開いて欲しいと市教委に依頼したのに断ったのは何故なのか</p>	<p>統合の相手校となる小学校1校から依頼を受けたが、このことを丁寧にご説明した。当該学校に答申案等の資料を備え付けることを、別途提案させていただきました</p>
<p>地域自治会などのコミュニティー関係者、当該学校の保護者、PTAに説明をしてから答申案をつくるべきではなかったのか、なぜ審議会に地域の皆さんの声を反映させようとしなかったのか</p>	<p>審議会には地域の代表者の方々にも、委員として参画してもらい、多角的・多面的な視点からの審議をいただいている</p>
<p>議事録については、適切な時期に公開を予定しているということだが、前回の統廃合でも非公開としたことに、枚方市情報公開・個人情報保護審査会は平成13年2月9日に議事録は、会議の公開又は非公開にかかわらず議事内容を記録するものであって、会議の非公開と議事録を作成しないこととは、必ずしも連関するものではない。当該文書を請求の対象たる公文書とした上で、原則として、これを公開すべきと考えたと答申しました。本来公開されるべき文書だ。</p> <p>1月の審議会で答申案が取れた時点で公開されるものと理解しておきます。</p>	
<p>統合の実施時期について「できる限り早期とすること」とか、「早期とすること」とあるが、どちらを最初に取り組むのか。</p> <p>具体的な手順について、今後どのように進めていくのか</p>	<p><u>「できる限り早期」とされた方策を優先して取り組むこととなります。</u></p> <p>審議会では市民から募集した意見を踏まえ、来年1月には答申を取りまとめる予定。</p> <p>教育委員会では、この答申を踏まえ、「学校規模等適正化基本方針」を改定。</p> <p>その後、新年度には実施プランの策定に向けて、保護者や地域等へ説明を行い、ご意見をお聴きする予定でございます。</p>

<p>施設一体型の小中一貫校について、メリット・デメリットについて記載されていない。どのように審議されたのか</p>	<p>国の学校教育法等の一部を改正する法律案の概要等をもとに、小中一貫教育の推進方策や意義、基本的方向性について、本年4月15日開催の第6回審議会において説明し、審議会において共有化を図った。</p>
<p>交北小学校に山田・山田東小学校を統合し、山田中学校と一貫校にするとしていますが、たまたま小学校と中学校が隣接していることが最大の理由にしたと読み取れますが、ある中学校では、大変荒れた時に小学校との間を通る道路が小学生を守ったともいわれています。このような隣接する小学校と中学校の関係については審議会で報告されたのでしょうか</p>	<p>問題行動等が発生していた時期はありましたが、その中で小中が連携して、授業規律の確立に努めることで、落ち着いた学校となっている。立地条件とは相関関係はなく、また、小・中学校が近くにあったことにより、その後も人権教育をはじめ多くの取り組みが実現できている。 そのため、審議会へは特に報告をしていないが、その状況を審議会委員はよく把握されており、それを踏まえた審議がなされていると考えている</p>
<p>施設一体型の小中一貫校について、審議会では共有化が図られたということだが、なぜ市民と共有化するために答申案で記載しなかったのは問題だ。</p>	
<p>2000年、平成12年度に北牧野小学校、村野小学校、2001年、平成13年度に村野中学校が統合されましたが、この時の統廃合問題について、市はどのように総括をしたのか、審議会に報告し、議論されたのか</p>	<p>教育委員会では、学校統合後の保護者に対する教育アンケートや、校長へのヒアリング等を実施したところ、いずれの学校も活気があり、子どもたちも元気に学校生活を送るなど、一部校区コミュニティについて融和が難しい地域もありましたが、学校の学習環境を維持していく上で、学校統合は適切であったと評価しております。 第2次学校規模等適正化審議会において村野小学校等の学校統合方策を含む、第1次審議会の答申について検証が行なわれ、概ね適切であったとの評価がなされている</p>
<p>桜丘中学校で 当時3年生だった若者に当時のことを振り返ってもらいました。村野中学校との統合で中学3年になって突然クラスが40人以上になって、先生も生徒を管理仕切れなくなり、村野中学校から来た一部の荒れている子と元々荒れていた子が一緒になって、学年がより荒れまくって手がつけれなくなった。村野中学校が三校に分かれたので今まで一緒だった友達と一緒に修学旅行や卒業式に出られないのを残念がって居たので気の毒に思った。 彼女が知る限り村野中学校の子達で桜丘の部活に入った子は少ない。今さら入りづらいし、夏で終わるからだと思うが二年間やってきたのに、やりきれないのはかわいそう。3</p>	<p>先ほど申し上げましたとおり、平成12年度・13年度の学校統合につきましては、学校の学習環境を維持していく上で、適切であったと評価しております。 なお、今回の審議会においては、児童生徒数の減少に伴い小規模校の増加が見込まれる状況を踏まえ、子ども達の良好な学習環境を確保する観点から審議が行われたところです。また、答申（案）におきましては、留意事項の一つに、「学校統合にあたっては、環境の変化による児童生徒の心のケアに配慮するとともに、教職員の人事配置など統合後の学校運営や学習環境の充実等について支援を行うこと。」とされております</p>

<p>年生夏の大会で終わりになる体育会系の部活ならなおさら。結論は、大人の事情で振り回され、それを変えることができないわだかまりがあるようにみえた。</p> <p>中学2年までの楽しかった思い出が最後に廃校になってみんなバラバラになってしまった、という結末で終わってしまうのは多感な年頃でもあるので、考慮してあげるべきでは。ということでした。教育委員会として総括していないのは問題です。きちんと教育的効果はどうだったのか、子どもたちの成長にどのような影響を与えたのか、きちんとまとめて審議会に報告すべきではないでしょうか</p>	
<p>【意見】村野中学校の統合では多くの子どもが辛い思いをして、学校教職員の皆さんも大変苦勞をしたのを私も当時桜丘中学校のPTA役員をしていたのでよく見ていましたし、本当に大変でした。このことをぜひ教訓にして子ども達のことを最優先に進めていただくことを強く要望しておきます</p>	
<p>【意見】公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引（平成27年1月27日 文部科学省）では「学校規模の適正化や適正配置の具体的な検討については、行政が一方的に進める性格のものでないことは言うまでもありません」とか、地域住民の十分な理解と協力を得るなど「地域とともにある学校づくり」の視点を踏まえた丁寧な議論を行うことが望まれます」と書いています。</p> <p>計画段階でなく、検討段階で保護者の意見や地域の声を聞くべきと文科省が指導しています。今後、PTAや地域で説明会を開催して十分、意見を聞いて進めていただきますよう、強く要望しておきます</p>	
<p>小規模校でもすばらしい実践をしている学校、地域ぐるみで教育に取り組んでいる学校など様々です。市長は地域のコミュニティの中心に学校を位置づけるといわれています。コミュニティの核をなくすようなことを進めていいのでしょうか</p>	<p>伏見市長答弁</p> <p>今後、本市の人口が増加するような施策を構築・展開していく考えですが、現在の状況では、小規模校が増加していくと予測されることから、良好な学習環境を確保し、充実させる観点から適正な学校配置の見直しは必要であると考えます。</p> <p>学校が地域のコミュニティ活動の中心であることは何ら変わるものではなく、今後もさらに学校と地域の連携を進めていくことが大切であると考えています。</p>

資料として、枚方市教育委員会が発表した答申案の一部抜粋したものを紹介します。

答申案は枚方市のホームページ、右側の「市役所の情報」3番目、組織一覧クリック、組織図の中から「教育委員会事務局 管理部」の「学校規模調整課」をクリックして、「枚方市学校規模等適正化審議会」をクリック、これだけの作業をしてやっと「枚方市学校規模等適正化審議会」のページにたどり着き、その中に審議会の答申案があり、21日までの意見募集もあります。ほんまに大変です。

そこで、かいつまんで次ページに主な内容を紹介します。

枚方市立小・中学校の配置等の適正化について

(将来における適正な配置等のあり方について) (答申) (案) より抜粋

(1) 基本的な考え方

小規模校：学校統合を基本方策として課題解消を図る。

大規模校：通学区域の変更により課題解消を図る。

過密校：通学区域の変更や校舎の増築により課題解消を図る

小規模校について

今後、児童生徒数が減少することにより、一層増加すると予測され、学習環境や学校運営に支障をきたすことのないよう、最優先課題と位置づけ、解消を図る必要があります。

このため、中長期的な視点に立ち、学校統合を中心に据え、課題解消を図るものとします。

なお、学校統合の検討にあたっては、子ども達の夢や元気につながるよう、新しい学校を築いていく観点で、教育現場や保護者・地域の方々の意見も踏まえながら進めることとします。

(2) 学校統合について

① 学校統合について検討の対象とする学校の要件

次の項目に該当する学校を学校統合の検討の対象とします。具体的な検討校は表1のとおり小学校9校、中学校2校となります。

ア. 現在または平成35年度までの推計において小規模校となる小学校及び中学校で、平成55年度までの将来推計においても、児童生徒数の増加により適正規模の範囲内になる見込みがないこと。

※ 小規模校：小学校については11学級以下、中学校については8学級以下
検討の対象とする学校

区分	学校名
小学校	樟葉北小学校、山田小学校、明倫小学校、高陵小学校、西牧野小学校、中宮北小学校、山田東小学校、川越小学校、東香里小学校
中学校	招提北中学校、山田中学校

ア. 学校統合の進め方について

a) 学校統合にあたっては、統合する3年前までを基本に「広報ひらかた」やホームページへの掲載、当該学校の保護者や地域コミュニティへの説明会等により公表し、オープンな形で進めること。

b) 当該学校の児童生徒や保護者、当該学校に関係する地域コミュニティなどへの十分な説明を行い、理解と協力を得ながら進めること。

c) 統合する学校間において、児童生徒や保護者・教職員の相互交流、合同行事の開催など、円滑な統合に向けた取り組みを進めること。

d) 学校統合にあたっては、保護者及び地域コミュニティ、学校、教育委員会等の代表者からなる「(仮称)統合協議会」を設置すること。「(仮称)統合協議会」は、教育委員会が本審議会の答申を受けて策定する学校規模等適正化基本方針を踏まえ、新しい学校を築く観点で、統合に関する諸課題について協議・検討を行う。教育委員会は、「(仮称)統合協議会」での協議・検討事項を踏まえ、統合の方策を決定すること。

イ. 教育環境の充実について

a) 統合校については、近年の教育内容・教育方法の多様化や学校を取り巻く社会状況の変化、安全・防犯対策や地域との連携などへの適切な対応を考慮した施設・設備に整備すること。

b) 学校統合にあたっては、環境の変化による児童生徒の心のケアに配慮するとともに、教職員の人事配置など統合後の学校運営や学習環境の充実等について、支援を行うこと。

ウ. 統合校の学校規模について

隣接する学校と統合した場合において、常態的に大規模校とならないこと。

エ. 通学距離について

通学距離に配慮した通学区域を設定することが、可能であること

高陵小学校・中宮北小学校

高陵小学校と中宮北小学校を統合し、高陵小学校敷地に統合校を設置する。

なお、統合の実施時期については、できる限り早期とすること。

ア. 学校の沿革と現状

高陵小学校は、昭和 43 年に明倫小学校及び殿山第一小学校から分離開校し、昭和 48 年に磯島小学校に、昭和 55 年に中宮北小学校に校区の一部を分離して、現在に至っています。

同校は、平成 20 年度から小規模校になり、平成 23 年度以降は全学年で 6 学級となっており、将来ともその状況は継続すると予測されています。

一方、中宮北小学校は、昭和 55 年に高陵小学校及び明倫小学校から分離開校し、現在に至っています。

同校は、平成 26 年度から小規模校となっており、平成 32 年度には一旦適正規模の範囲内となるものの、翌年度からは再び小規模校となり、平成 40 年度以降は全学年で 6 学級になると予測されています。

両校区は殆どが住宅地で、一部では老朽した共同住宅の建て替え等による若年層の転入などもありますが、校区範囲が小さいため、両校とも適正規模の範囲内になる程の児童数の増加は見込めません。

イ. 審議内容と結果

高陵小学校の方策については、中宮北小学校との統合案及び殿山第一小学校との統合案、明倫小学校との統合案を検討しました。

一方、中宮北小学校の方策については、高陵小学校との統合案及び殿山第一小学校との統合案、明倫小学校との統合案を検討しました。

それぞれの案について検証・評価した結果、高陵小学校・中宮北小学校ともに、通学距離や通学様態、校区範囲と学校の位置関係、中学校区との関係等から、高陵小学校と中宮北小学校との統合案が最善の方策であるとの結論に至りました。

また、統合校の位置については、学校の位置や保有教室数、学校の沿革等から高陵小学校敷地が望ましいと判断します。

なお、統合の実施時期については、両校とも既に小規模校となっていることから、できる限り早期とする必要があると考えます。

(現行推計)

区分		H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H35	H40	H45	H50	H55
高陵小	学級数 (CL)	6 (2)	6	6	6	6	6	7	6	6	6	6	6
	児童数 (人)	148 (10)	150	149	158	161	169	180	145	126	106	77	60
中宮北小	学級数 (CL)	11 (3)	11	10	10	11	12	11	8	6	6	6	6
	児童数 (人)	263 (12)	260	256	267	266	285	273	248	185	174	174	173

(統合後の推計)

区分		H27	H31	H32	H33	H35	H40	H45	H50	H55
統合校	学級数 (CL)	13 (5)	15	15	16	14	12	12	12	10
	児童数 (人)	411 (22)	427	454	453	393	311	279	261	233

山田小学校・山田東小学校・山田中学校

山田小学校と山田東小学校、交北小学校を統合し、統合校と山田中学校の小中一貫校（施設一体型）を交北小学校及び山田中学校敷地に設置する。
なお、統合の実施時期については、早期とすること。

ア．学校の沿革と現状

山田小学校は明治 12 年に開校し、昭和 32 年に明倫小学校に、昭和 45 年に交北小学校に、昭和 47 年に中宮小学校に、昭和 50 年に田口山小学校に、昭和 55 年に山田東小学校に校区の一部を分離して、現在に至っています。

同校は、平成 24 年度から小規模校となっており、平成 40 年度に一旦適正規模の範囲内になりますが、平成 45 年度に再び小規模校となり、平成 50 年度以降は全学年で 6 学級になると予測されています。

また、山田東小学校は、昭和 55 年に山田小学校及び交北小学校から分離開校し、現在に至っています。

同校は、現在 12 学級で適正規模の範囲内ですが、平成 28 年度から小規模校になる見込みとなっています。その後、平成 45 年度以降は全学年で 6 学級になると予測されています。

一方、交北小学校は、昭和 45 年に山田小学校から分離開校し、昭和 50 年に田口山小学校に、昭和 55 年に山田東小学校に校区の一部を分離して、現在に至っています。

同校は、現在 15 学級で適正規模の範囲内であり、学校統合の検討の対象とする学校ではありませんが、平成 40 年度から全学年で 6 学級の小規模校になると予測されています。

次に、山田中学校は、昭和 58 年に招提中学校及び中宮中学校から分離開校し、現在に至っています。

同校は、平成 24 年度から小規模校となっており、平成 28 年度には適正規模の範囲内になりますが、平成 40 年度からは再び小規模校になると予測されています。

山田小学校区は殆どが住宅地であり、また、山田東小学校区及び交北小学校区には、一部農地が存在しますが市街化調整区域のため、いずれも大規模な住宅開発は見込まれず、大幅な児童数の増加はないと考えられます。

イ．審議内容と結果

山田小学校及び山田東小学校、山田中学校の方策については、小中一貫校の山田小学校と山田東小学校、交北小学校を統合し、統合校と山田中学校の小中一貫校（施設一体型）を交北小学校及び山田中学校敷地に設置する。

なお、統合の実施時期については、早期とすること。

設置案のほか、各校個別の統合案として、山田小学校については中宮小学校・山田東小学校・交北小学校との各統合案、山田東小学校については山田小学校・交北小学校・中宮小学校との各統合案、山田中学校については中宮中学校・第一中学校・招提中学校との各統合案もそれぞれ検討しました。

それぞれの案について検証・評価した結果、各校個別の統合案としては、山田小学校は中宮小学校と、山田東小学校は交北小学校と、山田中学校は招提中学校と統合する方策が望ましいとの結論になりましたが、交北小学校敷地と山田中学校敷地が隣接し、一体的に活用可能なメリットを最大限に活かすことができる小中一貫校（施設一体型）設置案が最善の方策であるとの結論に至りました。

この山田小学校と山田東小学校、交北小学校とを学校統合し、交北小学校及び山田中学校敷地に小中一貫校（施設一体型）を設置する案については、通学距離や学校の沿革などの課題はありますが、教育力の向上に寄与する小中一貫教育への対応をより推進できることや、山

田小学校区を山田中学校区に編入することにより山田中学校の小規模校の課題を解消でき、大変有効であると考えます。

なお、山田小学校・山田中学校は一旦適正規模の範囲内になる予測がありますが、現在既に小規模校であり、山田東小学校も平成 28 年度から継続的に小規模校となる予測であることなどから、統合の実施時期については、早期とする必要があると考えます。

区分		H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H35	H40	H45	H50	H55
山田東小	学級数 (CL)	12 (2)	11	10	10	8	7	8	10	7	6	6	6
	児童数 (人)	274 (6)	264	241	234	226	208	209	230	216	202	181	159
交北小	学級数 (CL)	15 (4)	15	15	15	14	13	13	12	6	6	6	6
	児童数 (人)	446 (15)	448	449	456	451	424	396	288	208	184	159	133

(統合後の推計)

区分		H27			H31	H32	H33	H35	H40	H45	H50	H55
統合校	学級数 (CL)	22 (4)			21	19	19	18	12	12	12	12
	児童数 (人)	720 (21)			677	632	605	518	424	386	340	292

(現行推計)

区分		H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H35	H40	H45	H50	H55
山田小	学級数 (CL)	9 (3)	7	7	7	7	7	7	10	12	10	6	6
	児童数 (人)	230 (12)	209	203	203	200	194	183	243	245	222	187	160
中宮小	学級数 (CL)	15 (4)	15	15	14	15	16	15	16	12	12	12	12
	児童数 (人)	439 (25)	437	449	449	456	451	432	446	400	345	298	266

(統合後の推計)

区分		H27			H31	H32	H33	H35	H40	H45	H50	H55
統合校	学級数 (CL)	20 (6)			20	21	20	22	19	18	18	13
	児童数 (人)	669 (37)			656	645	615	689	645	567	485	426

明倫小学校

明倫小学校と中宮小学校を統合し、中宮小学校敷地に統合校を設置する。
なお、統合の実施時期については、今後の児童数の推移を見定めること。

ア. 学校の沿革と現状

明倫小学校は、昭和 32 年に殿山第一小学校及び山田小学校から分離開校し、昭和 43 年に高陵小学校に、昭和 47 年に中宮小学校に、昭和 55 年に中宮北小学校に校区の一部を分離して、現在に至っています。

同校は、平成 25 年度から小規模校となっており、平成 40 年度に一旦適正規模の範囲内になりますが、平成 45 年度以降は全学年で 6 学級になると予測されています。

一方、中宮小学校は、昭和 47 年に山田小学校及び明倫小学校から分離開校し、現在に至っています。

同校は、現在 15 学級で、平成 55 年度までの将来推計においても適正規模の範囲内で推移すると予測されています。

明倫小学校区は殆どが住宅地で、一部古い共同住宅の建て替えなどが計画されていますが、適正規模の範囲内になる程の児童数の増加は見込めません。また、中宮小学校区には一部農地が存在しますが、その他は既存の住宅地であり、新規の大規模な住宅開発は見込めません。

イ. 審議内容と結果

明倫小学校の方策については、高陵小学校との統合案及び中宮北小学校との統合案、中宮小学校との統合案を検討しました。

それぞれの案について検証・評価した結果、通学様態や中学校区との関係等から、中宮小学校との統合案が最善の方策であるとの結論に至りました。

また、統合校の位置については、学校の沿革に課題はあるものの、保有教室数や中学校との位置関係等から中宮小学校敷地が望ましいと判断します。

なお、統合の実施時期については、明倫小学校が平成 40 年度に一旦適正規模の範囲内になると予測されることから、今後の児童数の推移を見定める必要があると考えます。

樟葉北小学校

樟葉北小学校と樟葉小学校を統合し、樟葉小学校敷地に統合校を設置する。

なお、統合の実施時期については、今後の児童数の推移を見定めること。

招提北中学校

招提北中学校と招提中学校を統合し、招提中学校敷地に統合校を設置する。

なお、統合の実施時期については、今後の生徒数の推移を見定めること。

西牧野小学校

統合の方策及び実施時期については、今後の児童数の推移を見定めた上で、改めて決定する。

なお、統合の方策については、西牧野小学校と小倉小学校を統合し、小倉小学校敷地に統合校を設置する案、又は西牧野小学校と磯島小学校を統合し、統合校と渚西中学校の小中一貫校（施設一体型）を渚西中学校敷地に設置する案が有効である。

川越小学校

川越小学校と開成小学校を統合し、開成小学校敷地に統合校を設置する。なお、統合の実施時期については、今後の児童数の推移を見定めること。

また実施にあたっては、一部地域を春日小学校に編入することも併せて検討すること。

東香里小学校

東香里小学校と春日小学校を統合し、春日小学校敷地に統合校を設置する。

なお、統合の実施時期については、今後の児童数の推移を見定めること。